

# 辛かろう、夜逃げ家老

作…清野和也

◎登場人物（5人・男3人、女2人）

大野九郎兵衛（男）

作五郎（男）

おます（女）

おせい（女）

信吉 / 瓦版売り（男・兼役）

## 一場

幕があがると、瓦版売りが瓦版を片手に赤穂浪士の討ち入りを、「ラップ」で伝えている

瓦版売

時節元禄 齢十六 そんな餓鬼すら 刀手に取る

主君の恨み晴らさでおかぬ 侍の誇りただではすまぬ

討ち入り果たす 赤穂の藩士 雪舞う中とて 止まらぬ歩み

殿と家臣の縁 死厭わぬ魂 いと気高き志士

目指し集いし 四十七士 死角は無し

各々方（ガタ）ガタ 物音出すな

膝はガタガタで 立上がれっか？

烈火の如くの怒りに任せ いざ討ち入りだ 門開け

その売り口上を聞いて、客席で聞いていた田舎侍の作五郎が全速力で走って舞台上へ行く。舞台は元赤穂藩家老の大野九郎兵衛が隠れ住む福島県福島市庭坂李平の一軒家である

作五郎 大野殿！大野殿！

大野 ……（その声に驚き身を隠して）

作五郎 大野殿！！大野九郎兵衛殿！

大野 （大野思いもよらぬところから現れ）声がデカイ！ 作五郎！

作五郎 なぜ、そのようなところに？

大野 いつ吉良のやつが来るかと、こうしてな、待ち伏せて……それで……！

作五郎 報せが来ました！

大野 きたか！ どっちだ？ 良い方か！ 悪いほうか！

作五郎 (感極まって泣き出す)

大野 なにを泣いておるのだ！

作五郎 すいません・・・

大野 謝らずとも良い！！ どっちだ！

作五郎 すいません・・・

大野 どっちだと聞いておるのだ！！

作五郎 吉報でございます。赤穂浪士四十七士、無事本懐を遂げられました！

大野 それはつまり・・・ 吉良を

作五郎 討ち果たしたとのことですよ

大野 ・・・・そうか

大野、肩の力が抜け、どっと疲れた様子で座る

大野 長かった・・・ のお、作五郎

作五郎 丸一年。我ら第二陣のお役目もこれにて終いですね

大野 佐用。お役目御免じゃ・・・

作五郎 ・・・・

作五郎、これが大野との別れになると悲しみをこらえる。一方の大野は、自分の使命が  
終わったと脳天気とその喜びを抑えきれず

大野 はっはっはっは！酒じゃ、酒を持ってこい、作五郎！

作五郎 ・・・・酒でございますか？

大野 何をぼうとしておる。はよ、持ってこい！

作五郎 ははあ！

作五郎、酒を持ってきて、大野に注ぐ

大野 ととと・・・(飲み干して) 福島は辺鄙なところではあるが、酒は旨いのお

作五郎 ・・・・(感傷に浸り泣きだして)

大野 何を泣いておる

作五郎 ・・・・いえ、こうして大野殿と酒を酌み交わすのも最後かと思えば

大野 ああ、長い間世話になったなあ、作五郎。お前も呑め！

作五郎 いえ、私は結構でございます

大野 まあ、そう言うな！  
作五郎 手元が狂います故  
大野 手元が？ ははは！ 何を気にしておる、良いから！  
作五郎 ・ ・ ・ 大野殿の介錯を務めるからには  
大野 介錯？  
作五郎 赤穂浪士四七士、皆、將軍様に命ぜられ切腹を遂げられたとのこと  
大野 (酒を吹き出し) 何！？  
作五郎 主君の汚名をすすいだ暁には、私もそうするつもりだと  
大野 お前がか？  
作五郎 お戯れを。大野殿がでございます。この作五郎めに介錯を任せると  
大野 ・ ・ ・  
作五郎 大野殿？  
大野 言った？  
作五郎 ・ ・ ・  
大野 言うたー？？ それ、言うた？  
作五郎 はっ、確かに  
大野 ああ、そう・ ・ ・  
作五郎 やはり私では、ご不満が  
大野 あ、いや、そういう訳ではない。そういう訳ではないが。言うた？  
作五郎 最初にこちらにいらした時にですな、本懐を遂げれば某も切腹する所存んと。それまで世話になって良いか、と  
大野 ・ ・ ・  
作五郎 その心意気に打たれ今日この日までこの家に  
大野 そうだっけ？  
作五郎 万が一、吉良の家への討ち入りが失敗した時、米沢に逃げ込むであろう吉良を討つため、この地に潜みたいと。まさか嘘であったと？  
大野 いや、あのな  
作五郎 お主も武士の端くれであれば、主君に尽くすこの忠臣の想い解るであろうと、そう言うたのは、私を騙そうと？  
大野 いや、その、な！ そんなことも言ったかなあ  
作五郎 大野殿。私も侍の端くれ。 ・ ・ ・ 藩の金を持ち出し、ただ逃げ出した不忠者を(刀を手に取る作五郎)  
大野 待て、待て、作五郎！ 何をするつもりか！  
作五郎 不義の者を見逃してはおけません！  
大野 待て！！ 待て！ 刀を納めろ。納めろ、なあ、作五郎。冗談だ、冗談だ  
作五郎 冗談

大野 当然、腹を斬るつもりだ。死ぬ前に、冗談のひとつも言いたくもなるだろう  
作五郎 ……

大野 まあ、呑め。作五郎

作五郎 ……

大野 最後の酒じゃ。お主とともに酌み交わしたい

作五郎 ……

大野 こんな辺鄙な片田舎にしながら、作五郎は、侍たちが忘れかけておる本物の魂を  
持っておる（酒を差し出す）

作五郎 （酒を断りながら）そのようなことは…

大野 なぜお主のような者が、このような場所にくすぶっておるのか（酒を差し出す）

作五郎 （酒を断りながら）すべては私の力不足故

大野 お主のような真の武士に介錯を頼めて、わしは幸せじゃ（酒を差し出す）

作五郎 大野殿、介錯の使命！必ずや！

大野 （小刀で手に傷をつけ、血を酒皿の中に垂らし）おぬしの故郷、福島の地の酒に、

わしの血潮を一滴。共に天に誓いをたてようぞ、作五郎。真の侍たる作五郎殿と

大野 最期に義兄弟になりたい。

作五郎 ！ そのような勿体なき

大野 頼めぬか

作五郎 喜んでお受けいたします。

作五郎、自分の指も小刀で傷つけ、血を垂らす。大野が先に酒を呑み作五郎もその後には呑む

大野 そう、そうだ、ぐーつとな。ぐーつと

作五郎 ありがたき幸せ。それでは兄者の！（刀を手に取り）

大野 待て！ 待て！せっかく義兄弟となったのだ。今少し、お主と飲み交わしたい。

大野 そうはやるな！！ 天の後は地に誓いを立てる。呑め！（酒をつぎ、作五郎へ）

作五郎 ……はっ！（また呑み干す）

大野 次は人に誓いを

作五郎 ……はっ！！

大野 次は、月にー

作五郎 はっ！！

大野 己に

作五郎 ……はっ

大野 ……とにかく呑め！！

作五郎 いや、これ以上は

大野 兄の言うことが聞けぬのか!!  
作五郎 ははあ!! (飲み干して) それでは・・・!

作五郎、刀を手取るが、ふらつく

大野 作五郎! なんだそんなに酔うて!

作五郎 め、面目ない・・・

大野 ふん・・・そのような酔いどれに介錯など

作五郎 いや、必ずや・・・

作五郎、ふらつき大野を斬りつける

大野 危ない!!

作五郎 面目ない・・・(笑いだして) いや、しかし、大野殿、今に死ぬというのですから危ないというのもおかしな

大野 何を馬鹿なことを言っておるのか! これでは刀傷沙汰ぞ

作五郎 そうですな・・・

大野 詫びよ、詫びよ!!

作五郎 ははあ・・・

大野 そうじゃ・・・ぬし、酒の肴に何かせい

作五郎 何かと言われましても・・・

大野 芸のひとつやふたつあるだろう

作五郎 それでしたら、実は私の一族は代々この庭坂の地で、山伏の修行をしております・・・

大野 能書きは良い、何が出来る

作五郎 この辺りに漂う靈魂を憑依させることが出来ます

大野 おお! それは面白い!

作五郎 といいますがこの辺りにおるのは、たぬきやら猿やらの魂ですが

大野 よし、やってみよ!

作五郎 は! 兄者の頼みとあらば・・・

作五郎が念じると、彼に猿の魂が取り付く。猿真似をする作五郎。そこに、知恵遅れの少女のおますとおせいが入ってきて

おます 作五郎

おせい 何が楽しいんだ?

作五郎 おお、おます、おせい！めでたき日にて、こうして舞うておるのじゃ

大野 その通り！

おます 何がめでたいんだ？

作五郎 大野殿が本懐を遂げられたのだ！

おせい ほんかい？？

作五郎 主君を貶めたにくき仇を討ったのだ！

おます 討った？

おせい 殺したのか？

おます 大野がか？

作五郎 おます。大野様だ

おます 大野

おせい お前

おます 人を殺したのか？

おせい いけないやつだ

大野 おます。わしは殺しておらん

おます でも仇を討ったのだろう？

作五郎 大野殿のお仲間が討ったのだ

おます よくわからん

大野 お前らみたいな餓鬼女等にはわからんのだ

おせい わからん！

おせい 大野

おせい 人を殺すのは悪いことだ！

おます 悪いことだ！

大野 ・・・

作五郎 おい、いいから、あっちに行つてろ

おますとおせいはける

大野 興が削がれた

作五郎 申し訳ない、兄者

大野 あんな頭の足りぬ小娘、どうして飼うておる

作五郎 こんな田舎では、少し足りぬとも畑で働いてくれば宝なのです。むしろ頭の回るものは何かと理由をつけて働かぬ

大野 ふん・・・いっそ売ってしまえば良かろう。知恵遅れがちょうど良い

作五郎 兄者。

大野 冗談じゃ

作五郎 ……それでは  
大野 待て待て。こんな気持ちであの世に行つては、三途の川も渡りきれん。どうじゃ、もう一度、今の芸を、な？（酒をすすめて）  
作五郎 （酒をもらい）兄者がそう言うなら

作五郎、再び漂う魂を憑依させる。作五郎、先ほどとは一変して

作五郎 ……いと口惜しきかな  
大野 おお、今度は人の魂が乗ったか！  
作五郎 ……そち…見たことのある顔だ  
大野 なんと、わしのことを知っておるのか！ ははは！ これは面白い。わしは、赤穂藩家老大野九郎兵衛じゃ。ぬしは？  
作五郎 赤穂  
大野 そうじゃ、お主は何じゃ？赤穂の塩売りか  
作五郎 （手に持っていた刀を大野に当てて）こうしてすぐに恨みを晴らせるとはな  
大野 な、なななんじゃ！！  
作五郎 吉良上野介義央（きらこうづけのすけよしひさ）  
大野 何じゃと！？  
作五郎 知らぬとは言うまいぞ。ぬしら赤穂の浪士共に、寝首かかれた者である

## 二場

大野 待て、待て！  
作五郎 待てと言われて待つものがいるか  
大野 作五郎！  
作五郎 松の廊下でそう言うたぞ、そちの主君は  
大野 おふぎけは止せ  
作五郎 ふぎけてなどおらぬ  
大野 待て！ 待て！！ 私も被害者だ！  
作五郎 ……どういうことだ？  
大野 あのような痴れ者の主君を持ったこっちの身にもなつてくれ  
作五郎 ……  
大野 癩癩持ちで礼儀知らず！ 指南をしてくれた吉良殿にあのような場所で突然斬りつける！そんなものに付き従っていたのかと己を恥じた……！  
作五郎 ほお

大野 吉良殿。ワシは、あの討ち入りに参加してはおらぬ。それどころかその前に、赤

穂藩を脱藩し、こうしてここにいるのだぞ？ ワシの顔をよく見ろ。こんな顔の男がいたか！

作五郎 みなの顔を見たわけではない

大野 少し調べてみてくれ。ワシは大野九郎兵衛。世間では逐電家老と馬鹿にされている。だがな、吉良殿！ワシはそのことをちいとも後悔していないぞ。我が主（あるじ）こそ、悪！

作五郎

大野 ワシに罪があるとなれば、あのようなもの元につき従っていたこと！その日々が過ちであったからには、そうだな、この首斬られても仕方ない。だが！吉良殿に恨まれて殺されるのは堪忍願いたい！赤穂の四十七士の痴れ者と、一緒にされたくはない！我が誇りにかけて

作五郎

何を

大野 嘘を付いている

作五郎

大野 いや、四十七士と主君を、痴れ者と言ったことは、いや、誠の気持ちらしいが。だが、お前は、自分が助かりたい一心でそういうている。誇りなど無い

大野

作五郎

大野 その通り。ワシはまだ生きてやりたいことがある。どうだ、吉良殿。吉良殿もやり遂げたいこと、成し遂げたいことがあるから、こうして現世にとどまっているのではないか！命乞いをする代わりにそのことを手伝ってやる。

作五郎 嘘は無さそうだな

大野 勿論じゃ

作五郎 気に入った。見逃してやろう

大野 恩にきる

刀をおろす作五郎。一息つく大野

大野

作五郎 無論

大野

作五郎 誰だそれは

大野

作五郎 こうして再び天を仰げるとはなあ



大野 あのな、吉良殿

作五郎 なんだ

大野 吉良殿の今の体な、

作五郎 ああ、これか

大野 大変、恩のある男でな。一度、返してやってはくれぬか？

作五郎 返す？

大野 そうじゃ、

作五郎 良かろうイヤじゃ

大野 そこをなんとか、な！

作五郎 主がつく嘘はすべて解るぞ

大野 何？

作五郎 手に取るように解る。恩を感じてなどおらぬ

大野 何を言うか、良いか、わしは赤穂を抜け出し、誰も知り合いのいないこの街で、

作五郎 殿に住まいと飯を借り、その恩は海より深く

作五郎 利用しただけであろう

大野 何がわかる！

作五郎 手に取るように解るのだ

大野 ……

作五郎 なに、大野殿。我が願い果たせば、すぐにでも返そうぞ

大野 うむ……

作五郎 面倒事に巻き込まれてしまったのお

大野 そのようなことは

作五郎 一瞬だけ、戻してやろうか

大野 ……

吉良、一瞬だけ作五郎にその体を戻す。作五郎、大野に刀を突きつけ

作五郎 見損ないましたぞ、大野殿

大野 作五郎！！何じゃ、突然！

作五郎 主君を貶める言葉の数々、御恩のある藩への暴言、それでも武士か！それでも家

老だった男か！侍の誇りにかけて今、ここで討ち果たす！

大野 待て、待て！……吉良殿オ！！

作五郎 呼んだか？

大野 戻らずとも良い。ずっと吉良殿のままが良い

作五郎 左様か

大野 ……

作五郎 つくづく自分本位の男よ  
大野 ふんっ、悪いか！  
作五郎 開き直りおった！  
大野 武士なぞ、みな、自分本位よ  
作五郎 言うのお。しかし、困った  
大野 何がじゃ  
作五郎 そちは、この男に体を戻さずとも良いという。俺の願いを叶えずとも良いということになる  
大野 ああ、そうだな  
作五郎 それは困った  
大野 体があるのだ、自分ですればよかろう  
作五郎 そう言うな、縁じゃないか  
大野 覚えておくがいい吉良殿。わしが一番嫌いな言葉じゃ、縁とは何故？  
作五郎 偶然にかこつけて恩着せがましく言葉にする「縁」。他人は他人、己は己じゃ  
大野 寂しい男よのお  
作五郎 なんとでも言うが言い  
大野 して、そちはどうする  
大野 どうするとは？  
作五郎 主君の仇は討たれ、本懐は遂げられた  
大野 討たれたと言うても、眼の前にいるのだがな  
作五郎 ならば、今一度討つか！  
大野 結構だ  
作五郎 そんな度胸などないのだろうなあ  
大野 何を馬鹿にするな  
作五郎 主君などどうでもいいわけだしなあ  
大野 吉良殿。わしもだ、こうしてこんな辺鄙な場所に隠れ住んでおったのは、貴様を討つためであるぞ。いつ来ても良いようにと、こうして刀を手元に置きだな  
作五郎 抜いてみよ  
大野 ……は？  
作五郎 そう言うなら抜いて俺を斬ってみろ  
大野 ……  
作五郎 そんなことも出来ぬ腰抜けだと、はっきりと見えておるわ  
大野 ……後悔するなよ、吉良殿  
作五郎 ……

ト大野、刀を抜くが錆びて使い物にならぬ刀身

作五郎 ボロボロじゃないか。ああ、手入れを怠っておるなあ

大野 ……

作五郎 俺を討とうと、毎日、準備をしとった！

大野 うるさい。はよ、居なくなれ

作五郎 居なくなれとはおかしな話よ。ここは、この体の主の家だろう？

大野 吉良殿の家ではないだろう！

作五郎 ……帰る場所が無いのか！そうか！

大野 あるわ！ 赤穂に家がある！

作五郎 夜逃げ同然で来たのにか？

大野 なに

作五郎 妻子を置いて、藩の金を持ち逃げして

大野 なぜ知っておる

作五郎 思い出したわ、逐電家老、大野九郎兵衛。自ら名乗っていたではないか。貴

様の名は將軍様のお膝元、赤穂から遠く離れた江戸でも有名であったぞ

大野 ……なに？

作五郎 今更帰れたものか

大野 戯言を！

作五郎 帰れば良かろう！

大野 ……際ははわかってくれるに決まっておる！！

作五郎 ……ほお

大野 何を！ワシは、赤穂藩士討ち入り第二陣として、筆頭家老大石内蔵助様よりこ

こ李平の地にて待つよう、言われたのだ

作五郎 言うておけ、言うておけ。誰も信じやせん

大野 大石殿が証明してくれるわ

作五郎 死人に口なし

大野 ツ！喋っておるではないか、吉良殿は！

作五郎 ははは！ 全くだな！

大野 ……何を、大石殿よりしっかりと任命状を書いていたのだ

作五郎 どこにある？

大野 ……探せばある！ 確か、この戸の滑りが悪い時に、かませっておった

戸の下の紙を引っ張りですが

作五郎 ボロボロだな

大野 ええい！このようなものはなくとも！これだけは本当のことなのだ！誰がなんと言おうと！

作五郎 それならば、他の赤穂藩士のように、切腹せずとも良いのか？

大野 ・・・願いを言え、吉良殿！

作五郎 堪忍したか！

大野 代わりにわしをここに住まわせてくれ、頼む、このとおりだ

作五郎 何、簡単な事だ

大野 ・・・それは

作五郎 妻に会いたい

大野 ・・・

作五郎 何じゃ

大野 ははははは！吉良上野介の心残りが！妻に会いたい！

作五郎 ・・・

大野 いや、すまん、すまんのお・・・ただ、こう、赤穂の生き残りとしてはな、もつ

と恨みがましいものを！予想しておったんじゃ！ くくく・・・

・・・お主にはわかるまいぞ

くくく・・・わかった、わかったぞ、吉良殿！探してみよう

作五郎 ああ、頼む

そこに作五郎の上役である信吉が登場する。大野その声にあわてて身を隠して

信吉 作五郎、おるか

作五郎 おい、大野！何処に行く！

信吉 作五郎！

作五郎 ・・・

信吉 作五郎、おるなら返事くらいせい

作五郎 誰のことだ

信吉 お前のことだろう！

作五郎 作五郎・・・？

信吉 何を己の名を誂しげに言うておるか

作五郎 誰じゃ、そちは

信吉 なんじゃ、その話し方は

作五郎 誰じゃ

信吉 どうした、お前？頭でもおかしくなったか？

作五郎 斬るぞ

信吉 何を、貴様

慌てて大野が出てきて

大野 ああ、なんだ、その者

信吉 何奴！

大野 ああ、そう殺気立たずとも良い。わしは作五郎殿の友人だ

信吉 友人？

大野 そうだ。作五郎殿がな、頭をうったと報せを聞いてな、こうして飛んで来てれば、どうやら記憶を無くしているようだな

作五郎 無くしてなどおらぬぞ、大野

大野 とまあ、こういった具合。あまつさえ、ただ記憶をなくしたどころか、お主、名前前は

作五郎 吉良上野介だ

大野 と、こういった次第

作五郎 何がおかしい

信吉 なるほど

大野 無礼の数々、どうか許してやって下さい

信吉 貴様、古くからの友人と聞いたが

大野 ええ

信吉 作五郎殿とは元服前からの付き合い。貴様のような友人がいるとは聞き及びもしなかつたが？

大野 ……秘密の仲でして

信吉 ずいぶんと立派な身なりをしているが

大野 偽物だ、偽物。見栄ばかりはっている

信吉 ……ひとまず、一大事だろう。そち、作五郎殿を連れて一度、福島城まで登城するが良い

大野 いや、それは

信吉 良い医者もいる

大野 私は医療も詳しくてな

信吉 本当か？

大野 ああ、色々試していた所・・・それでもダメなようであれば、登城する

信吉 そうか？

大野 作五郎殿自身、元の記憶が戻った時、藩に迷惑をかけたとなれば、性格上、腹を斬るなどと言いかねん

信吉 それもそうか・・・なら、頼むぞ。

大野 お任せあれ

信吉はける

大野 吉良殿！

作五郎 何じゃ

大野 何じゃじゃない！ 厄介事を起こすつもりか！

作五郎 我らには関係のない話ではないか？

大野 阿呆！ 福島藩にバレでもしたら、すぐに赤穂に送られるわ！ わしは、藩の金を持ち逃げしたのだぞ！

作五郎 堂々と言うな

大野 正確にはそうするように言われたのだ！ 大石内蔵助殿に！ 託す、とな。ただ、

作五郎 そのまま告げればいいだろう

大野 信じてもらえぬと言うたのは、吉良殿ではないか！

作五郎 大金が手付かずで残っておれば良いのではないか？

大野 ……

作五郎 ……使うたな

大野 逃走資金じゃ！

作五郎 いくら残っておる

大野 関係なかろう！

作五郎 つくづくダメな男よのお

大野 だまれ！

トそこに信吉が戻ってきて

信吉 作五郎！ は、話を通じぬのだな

大野 何だ？

信吉 ぬしは、作五郎の楊枝削りの件、何か知らぬか

大野 楊枝削り。…ああ、確かに何かやっておった気が

信吉 本当か！ それは、どこにあるか解るか？

大野 ああ、確か、このあたりに…

ト大野、削りきっていない楊枝の束を取り出し

信吉 なんじゃ、終わっていないではないか！

作五郎 知るか

信吉 作五郎！ これは今日まで仕上げなければならぬと言うておったろう！

大野 作五郎は、このような様子で  
信吉 記憶など無くても腕には染み付いておるだろう。作五郎、これを早く仕上げよ  
作五郎 俺に言うておるのか？  
信吉 当たり前だ  
作五郎 このような下級武士がするような内職を？俺が？  
信吉 うるさい！それでもせねば、安月給、食うてく金も無いと嘆いておったお主に、  
大野 仕事をわけてやったのだぞ！  
信吉 今は、何を言うてもすな  
大野 今日の日暮れにまた来る！それまで、必ずでかしておけ！解ったな！  
信吉 それは少し！  
大野 さもなくば登城して話せ。いいか、お主に仕事を頼んだ、私の責もあるのだぞ！  
信吉 解ったな！

そういうと信吉はける

大野 ふん、やはり武士など、己のことばかりよ  
作五郎 高楊枝はこうして作られておるのだな  
大野 ああ、うちの下級武士共も作っておったわ。さあ、やれ、吉良殿  
作五郎 なぜ、俺がやらねばならぬ！  
大野 いいか！主の妻を見つけるとて、一月、三月はかかろうぞ  
作五郎 もっと早く見つけてこい  
大野 自分でいけばよかろう！  
作五郎 ふんっ！言うておくがな、我が吉良家は名門中の名門じゃ。俺の足を使って周  
るなぞ、とてもとても！  
大野 畜生が  
作五郎 何か言うたか？赤穂に帰るか？  
大野 まあ、良い！それは良い！だがな、吉良殿は、当分、福島藩の下級武士として  
生きていかねばなるまいぞ  
作五郎 何故じゃ  
大野 何故もなにもあるか！生きていくには金がかかる  
作五郎 俺は死んでいる！  
大野 その体は生きておるだろう！生きていれば腹が減る！腹が減っては飯を食う。  
飯を食うには金がいる  
作五郎 金の心配など・・・米沢藩の藩主は我が息子ぞ。頼めばすぐに送ってくれるわ  
大野 見ず知らずの男に金を渡すものがあるか  
作五郎 親ぞ

大野 その身なりではわからぬ  
作五郎 手紙で書けば良い  
大野 死者から手紙が来て送る阿呆がいるか！  
作五郎 ふんっ・・・しばらくの間、赤穂の金を使おう！  
大野 残念、もうすっからかんじゃ！  
作五郎 ならばどうする！  
大野 吉良殿が、作五郎殿が働くしか無いのお

大野、楊枝の束を渡して

作五郎 イヤじゃ  
大野 それでは！ わしは吉良殿の妻を探してくる！  
作五郎 そうはいくか  
大野 ……  
作五郎 ここに居て良い条件じゃ。せめて半分やれい  
大野 イヤじゃ  
作五郎 ああ、出来やせぬからそういうことを言うておるのだな？  
大野 何？  
作五郎 そうかそうか。赤穂の家老は楊枝削りも出来んのか！  
大野 ……一束よこせ！  
作五郎 ……(束を投げて)  
大野 高家の吉良殿とは違い、我々赤穂は民草に寄り添った政を行っておったからな、  
当然、出来るわ  
作五郎 良かろう。俺にもしろと言うのであるな  
大野 ワシは何も言うておらんぞ  
作五郎 おうおう、赤穂の田舎者には作れぬ楊枝を見せてやるわ  
大野 ははは！ 武士は喰わねど高楊枝。斬りつけられても、刀を抜けなかつた、腰抜け侍が！！  
作五郎 貴様・・・！ それはそちの主が！  
大野 手が動いておらぬぞ、吉良殿  
作五郎 そういってお主こそ

しかし二人、楊枝の作り方が解らない。お互い、チラチラ見ながら作り始める

大野 ……  
作五郎 ……



大野 おーい、おます、おせい。楊枝削りを手伝ってくれぬか！  
おます&おせい はーい！

おますとおせい、大野の元に来て

大野 良いか。こちらを向いて、作れ。良いか、作五郎殿には決して削り方を見せるで  
ないぞ！  
作五郎 貴様！  
おます イヤ！  
おせい いや！  
おます 作五郎が良い  
おせい 良い！  
大野 おい！

おますとおせい、作五郎の元に

おます 誰？  
作五郎 ……？  
おせい 誰？  
大野 作五郎殿だろう、おます、おせい  
おます 違う  
おせい 違う  
おます&おせい 誰？  
作五郎 吉良上野介じゃ  
大野 吉良殿！  
作五郎 なんじゃ、こんなガキに言ってもどうなるでもないわ  
おます きら？  
おせい きら？？  
おます ひかる！  
おせい おじちゃん、ひかる！  
作五郎 ひかる？  
おます 光ってる  
おせい 変なの  
大野 そうじゃ、おます、おせい！作五郎殿には今、お化けがついてしまったんじゃ、  
どうじゃ、怖いだろう…ほうら、おじちゃんのところに来なさい  
おます へんなの

作五郎 ……怖いか？

おせい ぜんぜん

おます 怖くない

作五郎 よしよし、良い子だ。一緒に、楊枝をつくろうじゃないか！

おます 楊枝、

おせい つくる

大野 よしわかった、吉良殿。おますはそこにいろ。おせいはこちらにおいで。おいで  
おいでおいでおいで〜

おせい来ない

大野 よし解った。そういう事じゃな。そういう事か

四人、楊枝作りをはじめ

大野 吉良殿

作五郎 何じゃ

大野 暇じゃ、何か話をせい

おます 大野

おせい うるさい

おます 静かにしなさい

おせい しなさい

作五郎 くくく…

大野 ……吉良殿。

おます&おせい 静かにしなさい！

大野 うるさい！ 大人の会話に子どもが口を挟むな！

おます おせい？

おせい おます？

おます&おせい そうかもしれない…

大野 お？

おます どうぞ

大野 阿呆じゃな、こいつは…

作五郎 ……で、何じゃ

大野 あ…いや、別に話はないが…暇だったもんで

作五郎 仕事をしろ！

大野 へいへい

作五郎 主のようなものが家老をやっておったから赤穂の悲劇が怒ったのだろうなあ  
大野 ……お言葉ですが、吉良殿。わしは、赤穂の財政を立て直したんじゃぞ？  
作五郎 ほー！ どんないカサマを使ったんだ！  
大野 ……くー！ 塩じゃ！ 塩！ 赤穂の塩くらいしっておるじゃろう！！  
作五郎 ああ！ あれ、何、大野殿の、汗を乾燥させてつくって  
大野 そうじゃ、わしが汗水垂らして、作ってない！ 阿呆！！  
作五郎 阿呆はどっちじゃ！ 知っておったわ、赤穂が見事、財政を立てなおしておった  
ことくらい！  
大野 ほー！  
作五郎 赤穂藩は、何をしようとおったのだ？  
大野 何をとは  
作五郎 ……本当に俺を殺そうとしていたのか？  
大野 その話か  
作五郎 あそこまで見事な、赤穂の塩田を作り、藩の財政は立ち直り。そうした矢先の凶  
事。何があったのだ  
大野 ……松の廊下である日、主が斬りつけたのはな、あの日が曇りだったからだな。  
作五郎 は？  
大野 曇天だったからだ  
作五郎 曇天。それだけの理由で？  
大野 主は癩癩持ちでな、特に曇天の日は機嫌が悪かった。それにもかかわらず、吉良  
殿は、何か主の気に触ることを言ったのだろう  
作五郎 それだけの理由で斬りつけたのか？  
大野 だから言うたじゃろ、阿呆なんじゃ。我が主は。そういうこともあるのじゃ  
作五郎 なんと言ったらいいのか、言葉が見つからん  
大野 大石殿も… ああ、主を討った四十七士の  
作五郎 知っておる  
大野 解っておったのだ。それはな  
作五郎 曇天のせいだと？  
大野 ああ。でもな、討ち入りをせざるを得なくなった  
作五郎 ……ご公儀のせいか  
大野 おお、気づいておったのか  
作五郎 天子様の話は俺の耳にも届いたわ。吉良が死ねば良かったと。ご公儀としては、  
大野 「しまった」と思ったのだろうなあ。  
大野 我が主君の罪状は、天子様の前での凶行。それにもかかわらず、それを認めたく  
わ。ただでさえ、お犬様の政権で不満が高まってる中、これはご公儀の失態に  
つながる

作五郎　ご公儀は俺に、俺の家を公方様のお膝元に引越せという。公方様の前で、家の軍備を固めるわけにはいかん。そういうことかと、高をくくったわ。ご公儀の失態を隠すために、主ら赤穂藩士にけしかけ、この話を侍の美談に仕立て上げる。

大野　どんまい！

作五郎　うるさい！

大野　・・・まあ。そんな所よ。実際は、俺達も利用されたにすぎん。

作五郎　・・・それも踏まえてだ。生き残った、お前は何を思っているか知りたいのだ

大野　何も

作五郎　何も？

大野　仕方がないことよ。わしは、吉良殿が死んで嬉しかったぞ

作五郎　・・・

大野　ようやく開放されるとな！

おます　大野

おせい　人を殺すのは悪いことだ

大野　おます、おせい。わしは殺してはおらん

おます　悪いことだ

おせい　悪いことだ

大野　うるさい

作五郎　俺は、お前ら赤穂のことは恨んではおらん

大野　もう、いいだろう、吉良殿。この話はおしまいじゃ。似合わぬ話よ

作五郎　・・・

大野　どう思っておるか、聞いておったのお。ワシらが作った赤穂を、我が主のせいで、離れることになったことを。ご公儀のせいで、めっちゃくちゃになったことを。・・・

作五郎　どうとも思っておらぬわ

大野　それは、誠か

作五郎　すまぬな、侍のような答えでは無くて！なんとも

大野　誠の気持ちかと

作五郎　そうじゃ、なんじゃ、そういう訳か。吉良殿は、倒幕のお仲間集めがしたいのか！

大野　やめておけ、やめておけ。死んでからくらい大人しくしておけ

作五郎　主は、生きておるであろう

大野　だから、どうした

作五郎　大野殿には夢はないのか！

大野　無い

作五郎　大野殿

大野　・・・何が言いたいのか、わからんぞ、吉良殿。一体、吉良殿は、わしに何をさ

作五郎 せたいのじゃ・・・？  
・・・いや

おます 大野  
大野 何じゃ。

おせい 嘘をつくのは悪いことだ  
おます 悪いことだ！

大野 おます、おせい。何を今更言っておるか・・・  
おます&おせい 悪いことだ！

大野 ワシは今まで沢山の嘘をついてきた。そうしなければ今が無いのだ  
おます&おせい 悪いことだ！

大野 嫌い  
嫌い

大野はける

作五郎 ……おい、おい、大野殿！ ……(大野のつくった楊枝を見て)下手くそだな！！

大野すぐに戻ってきて

大野 吉良殿！！

作五郎 おおお！ 何じゃ・・・

大野 来とるらしいぞ・・・！！

作五郎 何がじゃ

大野 来とるらしいぞ！！！！

作五郎 だから、何がじゃ

大野 吉良殿の嫁が福島に・・・！！

作五郎 何！？

### 三場

大野 吉良殿！ 何をぼーっとしておるのだ

作五郎 あ、いや

大野 ほら、主の願望がすぐそこにある

作五郎 うむ

大野 早く行って成仏しろ！

作五郎 これが終わってから、な

大野 何を悠長なことを！  
作五郎 あーもう少して終わるから  
大野 ……  
作五郎 難しいのお、楊枝をつくるというのは  
大野 ……終わったな？  
作五郎 ……(自ら折って) ああ、折れてしまった、もう一本

ケラケラ笑うおますとおせい

大野 何をしておるのだ！  
作五郎 納得がいかん！俺が作る楊枝がこんなものだとは！  
大野 もう良い！良いから早く！  
作五郎 もう一本  
大野 はーん  
作五郎 何じゃ  
大野 照れておるのか！  
作五郎 馬鹿言え  
大野 何ださつきは、あんなにはつきりと、妻に会いたい！…妻に、会いたい！と！  
作五郎 会いたいぞ  
大野 会ってくれば良かろう！  
作五郎 だから、これが終わったら！  
大野 いつ終わるのだ！  
作五郎 まだ、山のようにあるからな！

しかし、山のようにあった楊枝はおます、おせいが全部作り終えている

おます&おせい 終わった  
大野 終わったそうさ！  
作五郎 ……  
大野 そうだ、ここに連れてきてやる！おます、おせい！  
作五郎 待て！  
大野 何じゃ？イヤか？  
作五郎 ……イヤではないが！  
大野 よおし！おます、おせい連れて来なさい！  
おます 連れてくる！

おます、おせいはける

作五郎 待て！

大野 待たずとも良い！ほれ、お主は楊枝を作つとれ！

作五郎 誰を連れてくるか、解っておるのか・・・？

大野 ん・・・？・・・まあ、話を聞いておっただろうしな

作五郎 そうか・・・

途端にソワソワしだす吉良

大野 じつとしておれ、吉良殿

作五郎 うむ・・・

大野 情けないのお・・・

作五郎 ・・・・

大野 何をそんなに憂うことがあるのじゃ？

作五郎 主には関係なからう！

大野 ここに来て突き放すか！

作五郎 ・・・・

刀の素振りを始める吉良。大野、それを最初は黙っているが耐え切れなくなり

大野 何をじつとしておれ！！

作五郎 ・・・・

大野 主は嫁と決闘でもするつもりか！！

作五郎 いや・・・

大野 討つのか！？何か恨み節でもあるのか！

作五郎 そんなものはない！

大野 なら、刀を振るでない

作五郎 振らずにおれるか！

大野 知るか

作五郎 富子は最愛の妻ぞ

大野 最愛の妻と会うために、それがいるのかと！

作五郎 要るのだ。これは

大野 ・・・・

作五郎 妻を、この手で斬ろうと思うておる！

大野 ！？ 何を馬鹿なことを言うておる！！

作五郎  
・・・

作五郎、座って刀を研ぎ出す

作五郎 富子には、つらい思いをさせてしまったからな・・・

大野 意味がわからん

作五郎 死ぬに死ぬ定めとなってしまうた

大野 意味がわからん

作五郎 富子はな。討ち入り前に、逃しておったのだ。息子のいる米沢にな

大野 良かったではないか！討たれずとて！

作五郎 夫を守れず、家も守れず、奴は自分を責めておるはずじゃ。だが、己が子も孫も

生きておる。いや、切腹することすら許されぬ身

大野 お前のせいだろう

作五郎 だから、俺の手で

大野 なんと勝手な！

作五郎 武士などみな己のことばかりよ

大野 やめておけやめておけ

作五郎 構うな

大野 そうは言われても後味が悪い

作五郎 構うな。今更良い人ぶるでないぞ

大野 やめておけ、な、吉良殿

作五郎 ・・・

大野 こんなところで、事件でも起こしてみろ！ワシの居場所は何処になる！！

作五郎 お前は、何もせんでいい！俺一人で、殺る！

信吉 誰を、殺る、と？

そこにおますとおせいに連れられて信吉が登場する

おます 連れてきた！

おせい きた！

大野 来るな！

信吉 誰を、殺ると言っておったのだ！！

作五郎 ・・・

おます 固まった！

おせい 固まったね！

おます 吉良！



おせい 吉良く〜！

大野 そうじゃ、大石内蔵助を、な。討ちたいとな、戯言を

信吉 大石を・・・？

作五郎 うらめしや、うらめしや。あの恨みを晴らさでおくべきか！

信吉 ああ・・・吉良だったか・・・

作五郎 いかにも、某が、吉良上野介！

信吉 ふんっ、吉良はもう少し悪い顔をしておるぞ！

作五郎 うらめしやー

信吉 あいつは侍として最低な男だからな！もっと、こうイヤ〜な顔をしてな、腐った侍だからなあ！

作五郎 何だと！

大野 どうどう

信吉 世間じゃ赤穂藩士は英雄だが・・・吉良と、あとなんといつたから、逐電家老！？

信吉 あの二人はまあ、最低な侍だな。ああはなりたくない！

大野 何だと！

作五郎 どうどう

信吉 というか、治っておらぬではないか・・・？福島城に連れていくか？？

大野 いや、もう少しなのだ！もう少しで戻りそう

作五郎 そうじゃなー、今きとる、きとる。戻りそう

信吉 そうか・・・ま、楊枝が出来たからようし！なんてな！

大野 ははははは！はあ

信吉はける

大野 おます、おせい

おます はあい

おせい お駄賃

大野 馬鹿者！

作五郎 子供相手に怒るでない、大野殿

大野 誰が、あんなはっちゃりもっちゃりを連れて来いと言うた！

おます ・・・・ようじ出来たから！

おせい 大野が悪い！

大野 俺は悪くないわ！阿呆！

おます 大野が悪い

大野 うるさい、ドアホ！

おせい 大野は悪いやつだ！

おせい 悪いやつだ！

おせい 人を殺すのは悪いことだ！

大野 わしは殺そうとしないわ、阿呆！こいつだ、このイカレポンチが自分の妻を殺

そうとしているのだ！

おます 悪いことだ！

おせい 悪いことだ！

大野 悪いことだ！！

作五郎 大野殿、虚しくならぬか

大野 ふんっ、良いか！この場所で殺すのは勘弁願いたい！今でもし方が一、そん

なことが起きれば、確実にわしも共犯になってしまふぞ！

作五郎 今更悪名が増えたところではないか

大野 ふざけるな！ワシはもう平々凡々幸せな余生を過ごすのだ！

無理であろうな、その性格では

大野 ことを荒らげるでない！

作五郎

大野 良いか、吉良殿。吉良殿の想いもよく分かる。侍の妻。どれだけの人物かは知ら

んが、咎人の妻として辱めを受け、言いもしれぬ噂を立てられ、されど死ぬに死

ねぬ妻のことを案じる。・・・ワシも解る。ワシも、この使命があったとはいえ、

妻を赤穂に置いてきた。ああ、どんな想いで待っているのか。逐電家老の妻とし

てどれだけ馬鹿にされているのか！・・・その身を案じぬ日はない

おます 嘘つき！思っていない！

おせい 思っていない！思ってる！

おます&おせい え？

おます おせい？

おせい おます？

おます 思っていない！

おせい 思ってる！

二人、意見が別れ、むーと睨み合う。二人はこのあとずっと喧嘩をしている

大野 喧嘩するな、阿呆！！

作五郎 解っておる。こうして命を奪うことが正しいことではないと

大野 そうじゃな

作五郎 だが、それしか知らぬのだ。やり方を。在り方を。コレでしか、語れぬのだ。そ

ういう生き物であろう。侍とは

大野  
ああ

おせいがおますを突き飛ばす。おます、びっくりした表情。おせいもはっとして

おせい  
ごめんなさい

おます  
(首をふって)ごめんなさい。・・・お話！

おせい  
お話する！

おます  
お話する！

おせい  
お話！こんにちは！

おます  
こんにちは

おせい  
元気ですか！

おます  
ぼちぼちです

おますとおせいはける。吉良と大野はその二人を見ている

作五郎  
お話か・・・

大野  
そうじゃ、お話じゃ！お話をすれば良かろう！

作五郎  
ははは。今更何を話せというのか

大野  
なんでも良いではないか。思っていることを伝えるが良いぞ

作五郎  
・・・

大野  
のお

作五郎  
そんなに早く成仏して欲しいか！

大野  
当たり前じゃ！早くいなくなれ！

作五郎  
・・・

大野  
・・・連れてくるか？

作五郎  
待て。俺がこんな場所で、楊枝を削る姿など・・・見せたく無い

大野  
難儀じゃのお、男とは

作五郎  
解るであろう

大野  
まあ、な

作五郎  
だから連れてこずとも、良い

大野  
解らぬだろうしなあ、その身なりでは。富子殿も

作五郎  
・・・文を届けてくれぬか

大野  
吉良殿の文と解るか

作五郎  
解るように書こう。

作五郎、妻に宛てた文を書いて

作五郎 ……おます、おせい  
おます&おせい はい  
大野 富子殿はどんな方なのだ？  
作五郎 髪の毛の長い、美しい女性じゃ。泣きぼくろがある  
大野 その人に、この文を渡すのだ  
おます&おせい はい

文を受け取り客席に降りていくおます&おせい。お客さまを江戸の街の人に見立てて話しかけていく

おます 富子さんですか！  
おせい 違います  
おます 違うの？  
おせい ホクロない  
おます&おせい ごめんなさい  
おせい 富子さんですか？  
おます 違います  
おせい 髪が長くない！  
おます&おせい ごめんなさい  
おます 富子さんですか？  
おせい 違います  
おます&おせい 富子さんですか？  
瓦版売り いや、違うけど  
おます&おせい 女性じゃない  
瓦版売り ああ、ちよつと待った  
おます&おせい 富子さんですか？  
瓦版売り いや、違うって  
おます&おせい ごめんなさい  
瓦版売り 富子さんって、梅嶺院（ばいれいいん）様のことじゃない？  
おます ばいれい  
おせい いん？  
瓦版売り 梅嶺院。吉良上野介の奥さん  
おます そう？  
おせい はい！  
瓦版売り それなら、黒岩虚空蔵損（くろいわこくぞうそん）にいらっしゃるよ

おます どこ？

瓦版売り ほら、ここから、上の方に上がっていくと・・・

おます&おせい 走って行く

瓦版売り おお、気をつけてな！

おます&おせい (上を見上げながら) 富子さんですか？

暗転

## 四場

おます、おせいが家に帰ってくる。吉良、物陰に隠れている。

おます 帰ったぞ！

おせい 帰ったぞ！

大野 声がデカイ！・・・一緒には来ていないのか？

おます 来ない！

おせい 行かないって

大野 何！？・・・吉良殿の文は信じてもらえなかったか

おます ううん

おせい 信じた

大野 どういうことじゃ

おます 信じたけど、嫌って

大野 はははは！なんじゃ、嫌われておったのか！死んでも会いたくないとは相当、悪

い奴だったのだなあ・・・！

おせい 悪いやつ？

大野 そうじゃ、悪いやつだったのだ！だから、富子殿は会いたくないと言ったのだ！

おます 吉良、悪いやつ！

おせい 泣いてた

大野 泣くほど嫌いだったのだなあ

おます 悪いやつ！

おせい 悪いやつ！

吉良、そっと出てきて

おます 悪いやつ！  
おせい 悪いやつ！！  
作五郎 何がだ  
おます 富子、泣いてた！  
おせい 吉良のせいだ！  
おます 吉良、悪い！  
作五郎 話が急すぎて解らんぞ  
大野 さあなあ、お前ら夫婦のことは解らんが・・・  
おます 悪いんだ！  
おせい 悪いー！  
作五郎 富子は？  
大野 来ないそうじゃ。お主に会いたくないと  
作五郎 ・・・そうか  
大野 ま！こんなもんじゃ、作五郎殿。死してなお祈った願いは・・・  
おます 吉良は、悪いやつー！  
おせい 悪いやつー！  
作五郎 うるさいぞ  
おます 悪いんだー！  
おせい 悪いんだー！  
作五郎 会ってくれない悪いやつ！  
うるさい！！！！

静かになる

大野 なんじゃ、吉良殿。子どもに向かつて  
作五郎 いや、すまん・・・なんだ  
大野 どれ、返しやれ、その体を  
作五郎 ・・・  
大野 願いは叶わなかったが、それは、吉良殿のせいじゃった  
作五郎 そうだな  
大野 とすれば。その体受け渡すのが当然だろう！  
作五郎 その通りだ  
大野 さあ、返してやれ！  
作五郎 良いのだな？さすれば、作五郎殿が義に薄い、お前を斬るだけだが  
大野 ・・・！  
作五郎 良かろう、それでは

大野 待て！待て・・・！なら、どうすれば良い！

作五郎

大野 主の願いは叶わぬのだぞ！それなのに、ワシを脅してどうなる

作五郎 そうだな・・・行け。遠くに。作五郎殿が追えぬほど

大野 ……！ 恩に着る

作五郎 いっそ、恨みならばすぐに晴らせて、すっきりと

大野 あの世に行けたものをな！

作五郎 はよ、行け

大野 待て待て。ゆっくり思索してからじゃ。どこに逃れるか

作五郎 肝っ玉の太い奴だ

大野 赤穂の家には帰れん。女というやつは、思ったよりも命が太い。男など亭主など

いなくとも、なんとか生きていける。むしろ、邪魔になる

作五郎 みなさそうではなからう

大野 当事者に言われてものお。さて、どこに行くか

作五郎

作五郎家から出ようとして

大野 会いに行くのか？やめておけ

作五郎 馬鹿言え。お主と一緒に居たくないだけじゃ

作五郎はける

おます 吉良、泣かせた！

おせい 大野悪いやつ！

大野 うるさい。あれは自分で首をしめたんじゃ

おます 首？しめた？

おせい 自分で？首？しめられる？

大野 いや、首はだれかにしめられるなあ・・・。一人で生きてればそんなこともない

おます ひとり？

おせい 大野はひとり？

大野 わしは一人ではないぞ！

おます そうなの？

おせい 誰？？

大野 うるさいわ！

おます あ！

おせい あ！  
大野 何じゃ  
おます (文を取り出して) これ、渡さなきゃ  
おせい そうだ

おますとおせいはけようとして

大野 待て待て、ちょっとおいで、おます、おせい  
おます&おせい 嫌！  
大野 良いから  
おます&おせい 嫌！  
大野 その文は？  
おます ……  
おせい ……  
大野 富子殿から、吉良殿にとか  
おます ……  
おせい ……  
大野 貸しなさい  
おます&おせい 嫌っ！  
大野 良いか、おます、おせい。これは決して覗こうだとか、そういうやましい思いで  
読むわけではないぞ。この内容が、もしも、吉良殿を傷つける内容だったらどう  
する！ 悲しい内容だっただ、どうだ？それを渡すのは、ひどい話じゃないか？  
おます おせい？  
おせい おます…？  
大野 お前ら、読んだのか？これを  
おます&おせい 読んでない  
大野 もしも、これに、吉良は死ぬ！とか書いてあったらどうだ  
おます&おせい いけないことだ！  
大野 それをお前らが渡したら、それに手伝ったことにならないか？  
おます&おせい なる！  
大野 だったら、検閲をしなければならぬ！  
おます&おせい ならない！  
大野 阿呆だな、お前ら  
おます&おせい ……？  
大野 まあ、良い、読むぞ！お前らは、吉良殿が戻ってこないか、見ておれ！  
おます&おせい ……



大野 なんじゃ。気になるのか？  
おます&おせい はい！  
大野 あー、声に出して読んでやるから、見張っとけ  
おます&おせい はい！  
大野 ……  
おます 大野？  
おせい どうした？  
大野 ……。

大野が文を読んでいるところに作五郎が戻ってきて

作五郎 何じゃ、その文は  
大野 吉良殿  
作五郎 ……富子からの手紙か  
大野 いや  
作五郎 主のついでに嘘は何でも解るぞ！渡せ！  
大野 いや、それがな  
作五郎 渡せ。何を勝手に読んでおる！！  
大野 ……(ビリビリに破いて)  
作五郎 ……何を！  
大野 あ、すまん、気が動転して  
作五郎 ……  
大野 ……すまん  
作五郎 何が書いてあった  
大野 何も  
作五郎 嘘は解る  
大野 出家したそうだ  
作五郎 そうか  
大野 梅嶺院と  
作五郎 それで、どうした  
大野 そう噛み付くな  
作五郎 本当のことを知りたいだけだ  
大野 ワシは。ワシは、どこかで帰る場所があると思っておった  
作五郎 主のことなど今は良い  
大野 だが、一方で、人など信じられぬ。この世は結局、己だけじゃ、己ひとりで生きねばと思っておった

作五郎 そんな話など

大野 まあ、聞け。いや、ワシが文を破いた理由な、いやあ、頭を殴られたようだな

作五郎 ……

大野 嘘は、ついていないだろう

作五郎 そのようだな

大野 素晴らしい中身じゃったぞ。お主が死んでも、生きていくと。立派なおなじや

作五郎 それだけか。それだけしか書いていなかったのか

大野 ……

作五郎 言わぬということは、嘘になるからか

大野 書いておった

作五郎 何がじゃ

大野 梅嶺院。「梅」の意味じゃ

作五郎 ……それは

大野 疎いのだなあ、吉良殿は。そういったものに

作五郎 良いから、話せ

大野 ……

作五郎 話さねば斬る

大野 待て待て！

作五郎 嘘を言うても斬る。その腹の中身を、今言え。

大野 ……

作五郎 ……

大野 梅にはな「忍耐」。耐え忍び生きると

作五郎 ……

大野 それだけじゃ

作五郎 その言葉を言わねば良かったのにな

大野 ……

作五郎 それだけではないのか。何が書いてあった

大野 ……それだけじゃ

作五郎 嘘を言うな！！

大野 分かった。分かった！高潔じゃ。高潔という意味がある

作五郎 高潔。それは誰のことを、だ

大野 ……

作五郎 答えろ

大野 ……お主のことじゃ。お主のことを書いておったわ。死してなお、家族のことを気にかけてくれるのかと。なんと高潔な！なんと高潔な男だと！お主は何も悪くないと！ワシは驚いた。こんなにも信じあえる夫婦がいるのかと！高潔な

夫を持つが故に、私は、忍耐を。世間の荒波を耐え忍ぶと!!

作五郎

・・・

大野 ・・・すまん。下手くそじゃ、ワシはどうも。こういう嘘は。斬るが良かろう

作五郎

・・・

大野 さあ

大野 ・すまん。辛かろう。・・・梅の本当の意味はな、吉良殿

突然、作五郎の力が抜ける。吉良の魂が離れたのだ

大野 吉良殿!? 大丈夫か、吉良殿!!

作五郎 礼を言うと

大野 !?

作五郎 そう、申しておりました

大野 ・・・お主・・・作五郎か?

作五郎 ええ

大野 そうか・・・解ったのか、吉良殿は

作五郎 なんと、書いてあったのですか?

大野 梅には、3つの意味があるそうじゃ。忍耐、高潔、そして忠義、と

作五郎 忠義。それは

大野 このご時世、忠義という言葉は奴らにしか使わないだろう

作五郎 四十七士

大野 ああ

作五郎 忠義、高潔、忍耐。

大野 ・・・そうじゃ。吉良上野介殿を殺めた花々の名であろう

作五郎 梅嶺院。梅の名を

大野 ワシは。怖くなった。これまでしてきたことが

作五郎 怖く

大野 どこかでそれでも、信じていた。それでもなんとかなるだろうと

作五郎 ・・・

大野 どんなことをしても、誰かは見捨てず、誰かは信じてくれると。誰かは、わしの

作五郎 死に涙してくれると

作五郎 きつと、それはー

大野 そう甘くは無いだ。吉良殿のように不幸な事故で死んだとて、世間がそれを悪

作五郎 とすれば、悪となるのだ

作五郎 そうそうあることでは

大野 高潔に生きたとてそうじゃ。これまで、非道な生き方をしてきたものは、いや、

すまぬ。こんな話を聞かせて

作五郎 吉良殿は、大野殿の嘘に、感謝しておりました

大野 ……逃げじゃ。自分もそうして欲しいとな

作五郎 それでも、

大野 良い

大野、着ていた服を脱ぎ出して

作五郎 大野殿、何を

大野、白装束に着替えていく。作五郎、大野が切腹しようとしていることに気づく

作五郎 大野殿

大野 ワシは、不忠者じゃ……。作五郎殿。斬らずとて、良いのか

作五郎 ……

大野 すまぬな

大野、作五郎に酒をついで、渡す

作五郎、その酒を呑み干す

作五郎 願いは？

大野 要らぬであろう。足元がふらつくぞ

作五郎 ……

作五郎、介錯の為、刀を手に持つ

大野 ……

作五郎 忠臣蔵第二陣、大野九郎兵衛殿。主君への忠義のため、切腹。その介錯をば、勤

めさせて頂きます。

大野 作五郎！

今にも、というところで、おますとおせいが駆け寄ってきて

おます 大野

おせい 人を殺すのはいけないことだ

大野 おます、おせい

作五郎 向こうに、行っていないさい

おます いけないことだ

おせい いけないことだ！

大野 死に場所くらい、カッコを付けても良かろう

おます 人を殺すのは、いけないことだ

おせい いけないことだ

大野 ワシは、自分で死ぬのだ。命に意味をつけるのだ

おます&おせい いけないことだ！

作五郎 おます！おせい！

おます&おせい いけないことだ！！

大野 ……

大野、刀を持つ手が震え、落とす

大野 ワシに死ぬことさえ、許さぬというのか。お前らは！生き恥を晒せというのか！

これまで生きてきたことを悔い、記憶に残らぬ振る舞いを恥じ！作五郎殿が、吉良殿が！死に場所を、残してくれたのにか！！

おます&おせい いけないことだ！！！！

大野 お前らは、ワシに、武士という身さえ捨てろというのか！「武士」という誇りを、やっとなにつけようと思うておったのに、それすらも、脱げというのか！

作五郎 大野殿！！

大野、白装束を脱ぎ捨て、禪一丁になり

大野 見よ！これがワシじゃ！何があるか！必死に生き抜いてきた年輪があるか！何かこの体に、この生命に刻まれておるものがあるのか！！無かろう！何も無かろう！！なにも無いのがワシじゃ！何も……。せめて。せめて！！最期は、着せてはくれぬか。着てはならぬか！！

おます 大野、一緒に行こう

おせい うん！

大野 どこにいくんじゃ

おます えっと・・・あした！

おせい あさっても！

大野 いっその世に何もかにも残して、夜逃げをしようと思うておったが

作五郎 大野殿

大野 どうすればよいのじゃ、もう！

作五郎 命に意味をつけるなら。生きねばならぬのかもしれませんが、  
うように

暗転

### エピローグ

作五郎 風の噂で聞き及んだところによりますが、

大野 子曰わく、

おます&おせい 子曰わく、

大野 学びて時に之を習う、

おます&おせい 学びて時に之を習う、

作五郎 上州礪部にて先生をされているとか……。

大野 ……ひもじい、ひもじい……ああ、来世はもつとうまくいきよう……、

作五郎 後悔を残して野垂れ死んだとか……まあ、いろいろと話は残っておりますが。

ここ李平では……

おます 大野は引きこもり！

おせい 吉良を泣かせた！

おます 切腹！

おます さむらい！

作五郎 と、訳の分からぬ話をおますとおせいがするものなので……すっかりと英雄  
譚になっております。

そこに大野、大きな風呂敷をずると引きずって登場

大野 ……世話になったのお、作五郎殿。さらばじゃ……

大野、ひとり別れを告げて立ち去ろうとするが、荷物が重すぎて上がらない

大野 ん！？……重い……！？ん……！？

わたわたとしているところに、作五郎が声をかける

作五郎 大野殿！何をしておられるか！

大野 作五郎！いや、これはだな！

作五郎 去られるおつもりか

大野 やつと踏ん切りがついたのじゃ。  
作五郎 何を

大野 ワシはこの町では死んだことにもなっているし、他の所では野垂れ死んでるし・・・生きとるし！ワシ生きとるし！

作五郎 それはわかっております！！ですからこのままー

大野 大きな声を出すと、ガキどもが起きてしまうぞ

作五郎 お待ちください

大野 作五郎殿。世話になった。それでは・・・

大野、背負った荷物が上がらない

大野 手伝ってくれんか？

作五郎 大野殿

大野 ええい、一度な！赤穂に戻ろうと思っておるのだ

作五郎 赤穂に

大野 ああ、そうじゃ

作五郎 戻って何を？

大野 さあな・・・良いから、持て！

作五郎 何もこんな夜遅くに

大野 この方が落ち着くのじゃ

作五郎 まるで夜逃げではないですか

大野 言うな！それを言うな！！

作五郎 日が出て、おますとおせいにも声をかけてやって

大野 どうも、苦手なのじゃ、そういうことは。そっとしておいてくれ

作五郎 ・ ・ ・

大野 はよ、せい

作五郎、大野の荷物を押して背負わせてやる

大野 ワシはな、まだ、これで良い。まだ門出も出来やせん。やつとなにもないことに

気づいただけじゃ・・・

おます&おせい 大野！どこにいくんだ？

大野 寝てる、ガキどもは！

おます&おせい 私もいく！

大野 来るな、バカども！

作五郎 大野殿は。これから、出発するのです。おます、おせい

おます&おせい どこに??

大野 知らん!

作五郎 少しずつ、空が白みはじめました。門出には朝が良い

大野 良い、もういくぞ!

おます 行ってらっしゃい

おせい 行ってらっしゃい

おます おみやげ!

おせい おみやげ!

大野 戻ってこん!!

作五郎 お待ちしております。いつでも

大野 ふんっ

作五郎 大野殿、夜逃げよりも良かろう

大野 性に合わん

おます&おせい 行ってらっしゃい!!

大野 ……ふんっ…

大野、おます、おせいの頭をなでて、はける

おます&おせい 行ってらっしゃい!!

作五郎 大野殿!

大野 ……行ってくる!!

大野走ってはける。劇終